

# SRID NEWSLETTER

No. 353 April 2005 国際開発研究者協会 創設者大来佐武郎

〒102 -0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

URL: <http://www1.odn.ne.jp/~cdv20180>

## 4月号

SRID代表幹事に就任して  
広報に思うこと

国連工業開発機関東京ITPO代表 大嶋清治  
JICA 総務部広報室 西村恵美子

## お知らせ

1. 幹事会 5月16日(月) JBICにて

2. 新入会員

田中 秀和さん

UFJ 総合研究所

山下 道子さん 国際協力銀行開発金融研究所

## SRID代表幹事に就任して

国連工業開発機関東京ITPO代表 大嶋清治

皆様方の暖かい配慮により、不破前代表幹事より、2005年度の代表幹事を引き受けることになりました。

前代表幹事の不破様に戴いた皆様方の支援を引き続き宜しくお願い致します。

私がSRIDと関係し始めたのは、昭和48年に通産省、今の経済産業省に入った時に、田村様、和田様、島田様等の諸先輩がおられ、熱心に国際開発問題を議論しておられました関係で、SRIDの創設時より関与をさせて頂きました。それ以来30年近くの時が過ぎ、今新たにSRIDの活動に関与することになりました。西欧に追いつけ追い越せと入省した時は、技術導入許可申請書の処理に追われましたが、今は国内産業保護の政策は陰をひそめ、バブルの頃は、ジャパンアズナンバーワン等ともてはやされ、それが日米摩擦

を受けて海外からの輸入振興に政策を大転換し、そして今では、中国、タイ、マレーシア、フィリピンと多くの日系企業が海外進出を果たしております。

S R I Dをスタートした時は、如何に日本の企業を国内中心から海外に目を向けさせるか、海外に適用した応用技術を如何に開発するか等を活発に議論していたことを思い出します。そんな折、通産省に国際的な研究協力をする室が新たに設置され、初代室長に川口前外務大臣が任命されたのを懐かしく思い出します。前外務大臣の川口さんは、S R I D会員でしたが、先日の総会で新たに懇談会の幹事になった萩原さんが、総務担当幹事として一緒に働いていたと感慨深く言っておられました。川口大臣のさらなる活躍を祈念致します。

また、三上様、堀内様等昔からのメンバーがS R I Dの活動を30年の長きに亘りずっと継続しておられることに深く感銘すると共に、お礼申し上げたいと思います。老兵の活発な議論が継続する傍ら、最近では若い学生会員が意欲的に活動しており、次の世代が育ちつつあることに喜びを感じます。今後とも、S R I Dの良き伝統を踏襲し、自由闊達な人と人とのふれあいを大事にしつつ、今後の開発問題について、S R I Dの活動を通じて実りある意見交換を継続していきたいと思えます。

昔と違い、開発問題は、大きく変貌しております。日本のODAの縮小傾向と拡大の必要性、中国から他の国へのODAシフト、アフリカ開発問題、国連のミレニアムディベロップメントゴール、地球環境問題、人口の増加、エネルギーの高騰、地方への権限委譲と開発、WTOルールと格差の拡大、国際テロ等大いに議論すべき事があります。

S R I D会員皆様方の積極的な参加を宜しく願います。代表幹事としては、在京大使館との意見交換会の開催、そして、国際問題に活躍する中堅クラスの人にS R I Dの会員になってもらうべく努力する所存ですので、宜しくご指導の程お願い致します。また、私の所属する国連工業開発機関東京投資・技術移転促進事務所と日本国内機関との連携推進についても宜しくご支援の程お願い致します。

## 広報に思うこと

JICA 総務部広報室 西村恵美子

JICA では、昨年 2004 年度に、「JICA 広報グランプリ 2004」というインナーキャンペーン

ンを実施しました。これは、広報意識の向上および情報共有を目的として、JICA 関連の広報の優良事例＝グッドプラクティスを国内・海外の JICA 関係者から募集したものです。結果、国内外から 236 件の応募があり、その中から、グランプリ・準グランプリ・部門賞など 40 点を入賞作品として選出しました。

その中で印象に残ったもの、また選考を通して広報活動に関して思ったことをご紹介しますと思います。

## 1 そもそも「広報」とは？

「広報が大事」というのは、いろいろな場所で、常に言われていることでしょう。企業であれば、自分たちの商品を消費者に知ってもらい、買ってもらうため、ODA の世界であれば、国民に、ODA や国際協力の重要性を理解してもらい、支持してもらうため、広報活動は欠かせないものといえます。

では、そもそも広報とは何か。広報 (Public Relations) は、直訳すれば、「公衆とのよりよい関係作り」です。私たち (国際協力に携わる人) にとって、常に様々な人を相手に仕事をしています。カウンターパート、NGO、専門家、マスコミ、ボランティア、etc。これら全てのステークホルダーとよりよい関係を構築していくこと、これが広報なのです。

## 2 JICA 広報グランプリ 2004

JICA 広報室が 2004 年度に行なった、「広報グランプリ 2004」には、様々な事例が寄せられ、パンフレットやグッズなどの広報ツール部門、イベント・セミナー部門、新聞・TV などのメディア部門など、5 つの部門に分けて審査を行ないました。その中で、印象的だった事例をいくつかご紹介します。

### (1) マレーシア・ボルネオ生物多様性・生態系保全 (BBEC) プログラムにおける広報活動<広報グランプリ>

計 236 件の応募のうちで、最優秀のグランプリに輝いたのは、標記プログラムでした。標記プログラムがなんといってもすごかったのは、その報道件数。なんと、2002 年 2 月のプログラム開始以来、プログラムに関する報道件数は、この 3 年間で 572 件。主にサバ州の地元新聞 (英語紙、マレー語紙、中国語紙、カダサン語紙) のほか、全国紙、テレビ、ラジオ、雑誌等に登場しており、年を追う毎に報道数は増加傾向にあります。もはやサバ州で BBEC を知らぬ者はいない、というくらいの状況です。

どうしてそんなに報道されるのか、広報の極意を元プロジェクトリーダーに聞いたところ、「広報活動は、プログラム/プロジェクトマネジメントの重要なツールです。マスコミを味方につけ、プロジェクトのステータスをあげることで、カウンターパートや関係者のモチベーションが高まり、一般市民の理解も得られ、活動をさらに進展させることができるのです。プレスリリースを出す、イベントやセミナーにマスコミも招待するなどし

て、普段から関係作りに努めています。」とのこと。まさに、広報＝よい関係作り、の実践例でした。

(BBEC プログラムホームページ：<http://www.bbec.sabah.gov.my/japanese/>)

#### (2) インドネシア・JOCV 地域保健イベント <イベント・セミナー部門優秀賞>

次に印象に残ったのは、インドネシアで、一人の青年海外協力隊 (JOCV) の助産師隊員が実施した、地域保健イベントでした。地域の人たちにもっと健康について興味を持ってもらおうと村人たちと企画した「健康祭り」。コンセプトは、「楽しみながら健康に興味を持ってもらうこと」。歌、音楽、影絵芝居、絵画など、立場や民族の違いを超えて、人々が楽しめるような媒体を通して、健康や栄養について紹介しました。結果、当日は、村や郡の要職者など招待客 130 名、村民約 1000 名が参加し、深夜まで続く一大イベントになりました。

一人の協力隊員が、村の人たちと企画・準備運営を行い、このように大きなイベントをなしとげたことに脱帽ですが、その裏話を聞いてみると、「村人と一緒に企画したボトムアップの要望だったので、やはり最初は県の役場が難色を示していました。でも、何度も話し合った結果、県の理解を得て、郡主催で実施することになりました。当日は郡の要職者も積極的に参加し、郡知事も夜中の 2 時まで残って楽しんでくれました。こうした催しを通して、郡の人と村人との距離も縮まり、健康への理解も深めることができたのではないかと思います」とのこと。まさに、協力隊員の熱意と行動力で、村人一郡一協力隊員間により関係を築けた事例でした。

### 3 おわりに

こうして見てくると、広報活動とは、周囲の関係者とのよい関係作りであり、皆がそれぞれの場所で、日々実践している、また実践しなければならないことであることが分かります。

協力隊員や専門家はそれぞれの任地で、我々 JICA 職員は日々の業務の中で接している人々との関係を、よりよいものにしていくこと、これが広報、ひいては事業の理解へとつながっていくのではないのでしょうか。

私も身の回りの人間関係を大切にしよう、と思ったのでした。